

知ってほしい!

救急車に関する あれこれ

春日・大野城・那珂川消防組合消防本部

大野城市、春日市、那珂川市を管轄地域とする。管内人口およそ26万5000人に対し、常備救急隊6隊、予備救急隊1隊で全ての救急出動に対応。

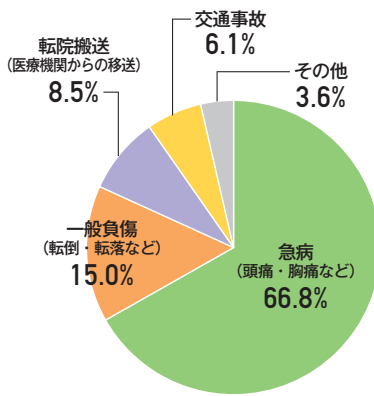


救急車を取り巻く現状

今年上半期時点の救急出動件数は、約5700件で、昨年と比べて約900件増加しています。

2021年の救急要請は急病が圧倒的多数を占めています。この急病の中には、脳卒中や心筋梗塞などの緊急性の高い疾患から、単なる風邪症状のように、救急車を必要としないと思われる症例なども含まれています。

救急出動内容の内訳 (2021年)



軽症が多くを占める現実

搬送された人の半数以上が医師により軽症と診断されています。救急要請の時には重症なのかどうか分からない事案(頭を強く打った・一時的に意識を失ったなど)もあり、軽症の全てが救急車利用の必要は無かったとは言えません。

しかし、軽症事案の中には、いわゆる「救急車の不適正利用」と呼ばれるような事案も少なからず含まれ

ています。限りある救急車が必要な人の元に向かうために、「どのような時に救急車を呼ぶべきか」「どういふものが不適正利用と呼ばれているのか」を理解する必要があります。

救急車の不適正利用とは

「この場合は不適正利用」と、ひとくくりに断じることができません。結果的に不適正利用だと判断された事案で、救急隊がよく聞くワードをここで紹介したいと思います。

- ◇自分で病院に行こうとしたけれど、飲酒しており運転できなかった。なので救急要請した
- ◇自分で病院に行ける状態だったが、救急車で行った方が早く診てもらえると思い救急車を呼んだ
- ◇共通しているのは、救急車をタクシー代わりに利用しているということです。「飲酒しているから」「早く診て欲しいから」という理由だけで救急要請することは、絶対に控えてください。

救急車は、生命の危機にひんした人に必要な処置をしながら、適切な医療機関に搬送するための車です。決してタクシーのような使い方をしないで良い車ではありません。ちなみに、救急車で行っても、病院によっては緊急性が無いと判断された場合、一般外来に案内されることがあります。